

DTX-1800付属ソフト LinkWare出力レポートの解説 ① (メタル編)

最悪マージン: NEXT の測定において規格値と実測値が最も接近している周波数での、2値の差。
測定規格: テスト時に選択した測定規格。
不良のしきい値: ケーブル・インピーダンスの急な変化に対する許容値。デフォルト 15%。
 インピーダンスが100Ωの場合、±15Ω以上の変化にて不良となる。
 HDTDRという機能により、本体から何m地点でこの規定から外れているかを知ることが可能。
 もし、一個所でもそのような部分があれば“不良”としてテストレポートに表示。

規格バージョン: 合否判定に用いた測定規格データベースのバージョン。
ソフトウェアバージョン: テスタを制御するソフトウェアのバージョン。
NVP: ケーブル長の測定に関するパラメータ。デフォルトは69.0%を使用。

ケーブル長・伝搬遅延:
 ここでは、測定規格としてパーマメントリンクを選択、最大長は90m。長さの合否判定は最も短いペア、言い換えれば最も伝搬遅延時間の小さいペアで判定。

ロゴ
 測定を担当した会社のロゴ等をビットマップ形式で自由に挿入可能。

テスト情報
 使用したテスト機種とそのシリアルナンバー、およびアダプタの種類を表示。

抵抗値: TIA規格では規定なし。

インピーダンス: TIAやISO規格ではDTX-1800のようなフィールド・テストで測定する項目としてインピーダンスは含まれておりません。従って規格で定められていない項目に関してはAUTOTESTで測定しないため、空白となります。また、インピーダンスの不連続の項では本体から何mの位置でインピーダンスがずれているかを表示。

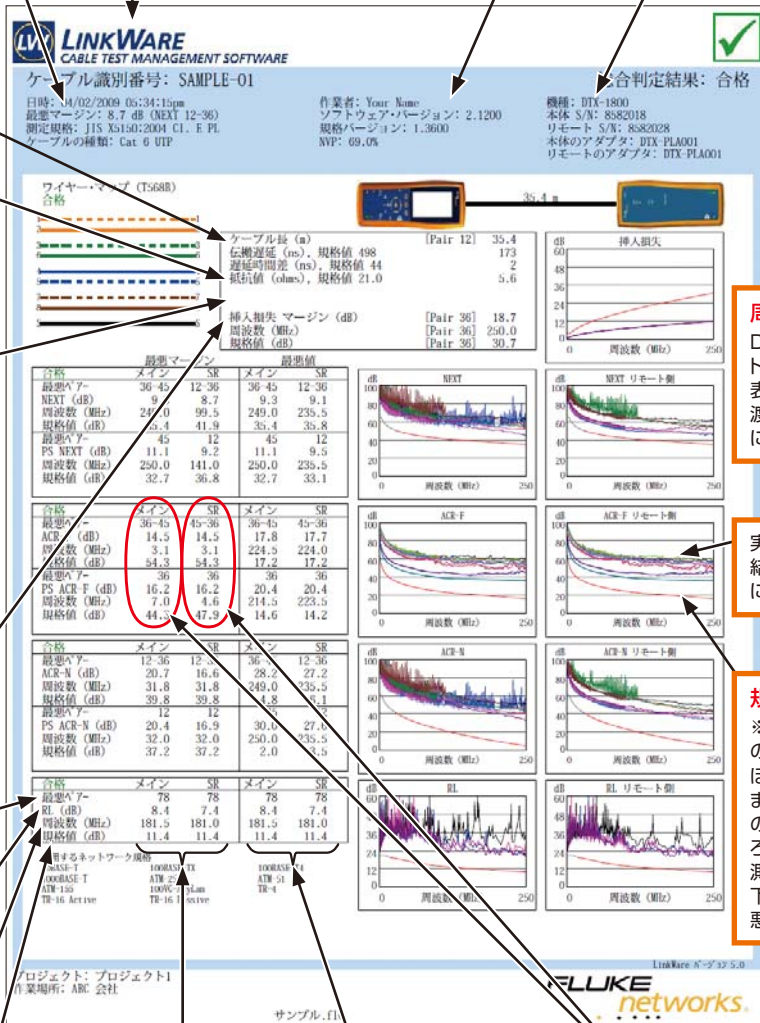
挿入損失: 最も減衰が多かったペアでの実測値と、その周波数における規格値を表示。

最悪ペアー
 最悪マージン、および最悪値の結果が現れたペアを表示。

測定項目
 2行目は表示されている測定項目の最悪マージンを表示。

周波数
 最悪マージン、および最悪値の結果が現れた周波数を表示。

規格値
 上記の周波数における規格値。



周波数特性図
 DTX-1800では測定レポートに周波数特性のグラフを表示、全測定周波数帯に渡ってのマージンを直感的に参照可能。

実測値: 4 ペアそれぞれの結果が重なっているので見にくいかもしれません。

規格値
 ※挿入損失を除き実測値の線がグラフの上にあるほど良い結果であると言えます。この規格値と実測値の線の間隔が最も狭いところが最悪マージンであり実測値の線が、グラフの最も下部に行っている部分が最悪値。

最悪マージン
 この列では、各測定規格における最悪マージン(規格値と実測値が最も接近している状態)の状況を表示。

最悪値
 規格値等に関係なく実測値において最も悪かった値を表示。

メイン/SR
 測定項目によっては測定する方向によって結果が異なるものもありますので、本体側から見た結果と子機側から見た結果の両方を表示。

DTX-1800付属ソフト LinkWare出力レポートの解説 ②(光ファイバ編)

テストした日付と時間
テストに使用した測定
規格

測定した結果の中で、
一番悪い結果が最悪
マージンとして表示さ
れる。

ソフトウェア・バージョン：テストを
制御するソフトウェアのバージョン

S/N
使用したテスト機種と
そのシリアルナンバー。

測定方向：
R -> M (リモートから本体)
M -> R (本体からリモート)

n: 屈折率
テストに設定されている
屈折率を表示。

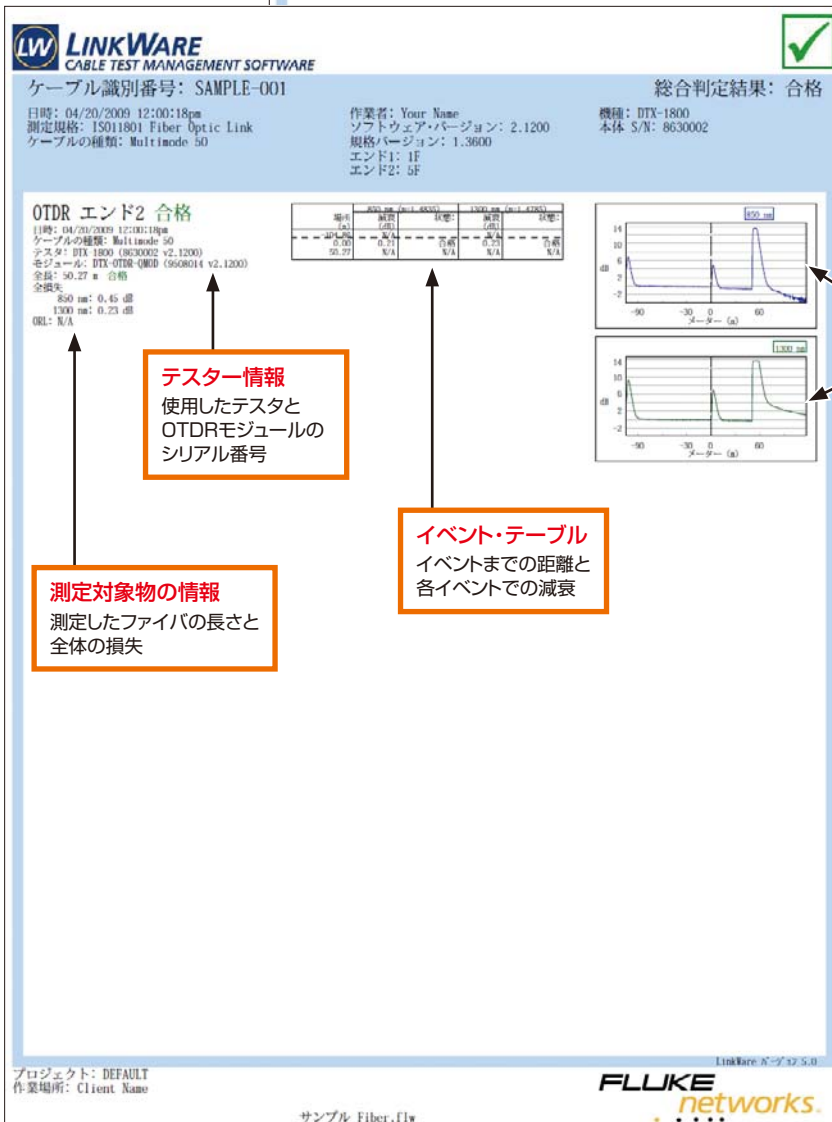
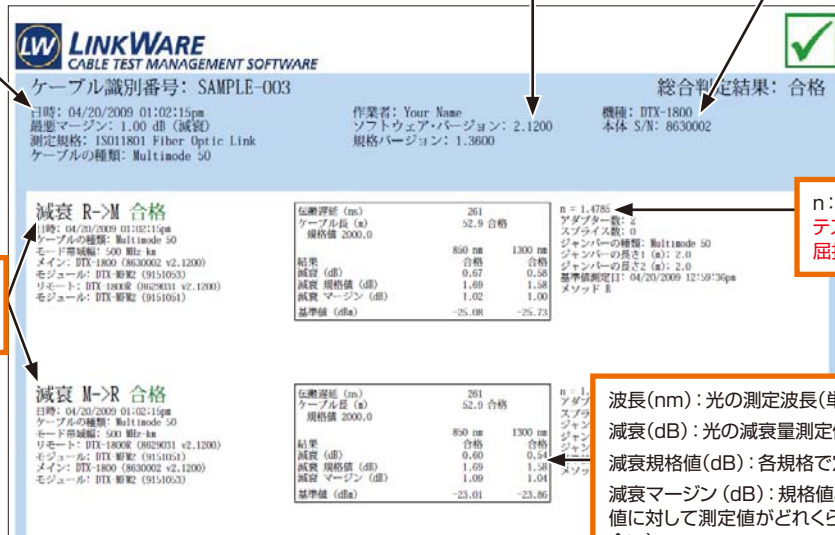
波長(nm) : 光の測定波長(単位:ナノメートル)
減衰(dB) : 光の減衰量測定値(単位:デシベル)
減衰規格値(dB) : 各規格で定められたリミット値
減衰マージン(dB) : 規格値と測定値との差(規格
値に対して測定値がどれくらい余裕があるかの度
合い)
基準値(dBm) : 最初に測定した基準の光パワー
(単位:デビィエム)極性はマイナス

OTDRトレース・グラフ
この例では850nmと1300nm
波長による測定結果

テスター情報
使用したテストと
OTDRモジュールの
シリアル番号

イベント・テーブル
イベントまでの距離と
各イベントでの減衰

測定対象物の情報
測定したファイバの長さ
と全体の損失



- 新商品のご紹介
- レンタル商品
- レンタルの使い方
- 接続機器
- 光ファイバ
- 光測定機器
- ネットワーク
- 無線測定機器
- 電力試験
- その他通信設備
- 工事用機器
- 情報端末機器
- 注文書記入例等